

## くるみに対する固形肥料の肥効試験

町田 博・小林幸右エ門

山地に栽植したくるみの幼木に対する固形肥料の肥効をみるために、昭和35年に始められた継続試験である。

試験地 小県郡東部町和区 大室総合農場

試験地 次のような3区3連制で、総面積61.0aである。

ブロック		無肥料区	標準施肥区	倍量施肥区	計	反当本数
I	面積	7.5a	5.0	7.5	20a	
	植付距離	4.5m×4.5m	4.5m×4.5m	4.5m×4.5m		
	植付本数	27	18	27		
II	面積	7.5	7.0	11.5	26a	
	植付距離	5.4×5.4	5.4×5.4	5.4×5.4		
	植付本数	24	24	36		
III	面積	5.0	5.0	5.0	15a	
	植付距離	4.5×4.5	4.5×4.5	4.5×4.5		
	植付本数	18	18	18		
計	面積	20a	17a	24a	61a	
	本数	69本	60本	81本	210本	34

Iブロックはラジノクローバー、オーチャードグラスの混播草生4年目、II IIIブロックはオーチャードグラスの草生1年目の圃場で、何れも幼木の周囲半径1m位は無草にした。

施肥 肥料は(桑) 2号粒状固形肥料(N-10, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-4, K<sub>2</sub>O-2)で、その所定量を樹の周囲に撒布施肥した。

区	1本当施肥量	成分量			反当施肥量
		N	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	
無肥区	0				0
標準施肥区	1kg	100	40	20	33kg
倍量施肥区	2kg	200	80	40	66kg

4月上旬発芽前に春肥として施肥するだけで、追肥はしない。

成績

本生育期間中に生じた新梢数とそれらの伸長量を調査した結果が次表である。植付4年目を迎えて各幼木とも枝数が増えてきたので、本年は調査樹数を各ブロック10本とした。

くるみ幼木の新梢伸長量

区名	調査樹数	一樹当	一樹当	新梢1本当	全 指数
		新梢総伸長量 cm	新梢数	伸長量 cm	
I ブロック					
無施肥区	10	418.9	22.7	18.0	100
標準施肥区	10	455.8	19.8	23.8	132
倍量施肥区	10	261.8	14.0	19.6	109
II ブロック					
無施肥区	10	430.5	22.1	19.2	100
標準施肥区	10	485.0	23.0	21.4	111
倍量施肥区	10	497.0	22.6	21.9	114
III ブロック					
無施肥区	10	271.9	19.7	13.3	100
標準施肥区	10	272.6	14.0	20.3	153
倍量施肥区	10	468.2	21.6	21.8	164
平均					
無施肥区	10	373.8	21.5	16.8	100
標準施肥区	10	404.5	18.9	21.8	132
倍量施肥区	10	409.0	19.4	21.1	129

前年までは植付当時の植傷みや苗の素質の相違等で、生長に均衡をかき、新梢伸長量に一定の傾向がみられなかったが、本年の成績では各ブロックとも、施肥の効果がみられる。

発現新梢数の多少はクルミシンクイムシの被害に影響されることが著しく、本年は害虫の被害が著しかった。